

児童 1年男子2名 女子1名 2年男子1名

授業者

1 単元名

秋の遠足のことを話そう ～ぶどう作りのことを話そう～

2 単元について**【単元設定の理由】**

本学級は1年生3名（A, B, C），2年生1名（D）の4名で構成されており、「話すこと」にかかわる実態について、次のようにとらえている。

子ども	「話すこと」にかかわる実態
A (1年)	欲しいものがある時や手伝って欲しい時は、大きな声を出す。物や写真を指さして教える。文の語尾や「やった」という言葉が出てきている。
B (1年)	「～君と遊んだ」「プールに行った」と自分がしたことを話そうとすることが多い。話したいことがあるが、「あのね、あのね・・・」と本当に話したいことを伝えることができないと怒り出してしまうことがある。
C (1年)	「～君は、どこ？」等と気になることは、相手に聞くことができる。興味・関心のあることをしている時は、「時計してるの」などと教師に自分がしていることを話すことがある。
D (2年)	写真やイラストで状況を説明する2語文を話すことができるようになっている（「手を洗う」「新聞を読む」）。「先生、電車見たの！」と家でしたことを学校で報告することができる。

これを受けて、各々の国語科の「話すこと」にかかわる年間目標を次のように設定した。

子ども	「話すこと」にかかわる年間目標
A	体験したことを単語で話すことができる。
B・C・D	体験したことを主語・述語の文型で話すことができる。 物の特性（大きい、重い、長い等）を加えて話すことができる。

年間目標を達成するために、伝えるための言葉の学習として、語彙を増やす学習（名詞、動詞）を中心に取り組んできた。

文を組み立てる学習（絵に対応する文を文字単語と助詞を組み合わせで作る）も並行して行ってきた。そして体験したことを話して伝える学習として、学校でしたことを家庭でその日に報告することに取り組ませてきた。また、職員室に居る教師に報告することにも取り組んだ。

一方、話して伝える指導法の一つとして、伝える内容の原稿となる視覚的台本を作成し話すことに

ついて学習してきた。子どもたちが好んで行っていた活動場面を教師が何枚か写真に撮り、写真の下に話す文を付け加えるという台本である。取り上げてきた体験活動としては「冷麺作り」（春の遠足）「ピザ作り」（誕生会）「カレーライス作り（校内合宿）」がある。

以上の学習を踏まえて、本単元の目標を次のように設定した。

子ども	「話すこと」にかかわる本単元の目標
A	写真を指さして、体験したことを伝えることができる。 教師の声を模倣しながら「ぶどう 作りました」と話すことができる。
	視覚的台本の写真を指さして伝える。
B, C	体験したことを「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました」と物の特性を表す語彙を含む主語・述語の文型で話すことができる。
	文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら話すことができる。
D	体験したことを「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました」と物の特性を表す語彙を含む主語・述語の文型で話すことができる。
	全文を隠した視覚的台本（ <input type="text"/> ）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました」と話すことができる。

* 上段は「話して伝える内容」、下段は「視覚的台本の活用」について

【研究にかかわって】

（1）生活単元学習と関連させた学習活動

本単元「ぶどう作りのことを話そう」は、生活単元学習の「秋の遠足」で体験したものを再現し、ぶどう作りの活動を話して伝える学習である。今回の遠足では、ぶどう狩りを体験し、ぶどう園で実っているぶどうを実際にとったり、食べたり、おみやげに持ち帰ったりした。このような実体験によって子どもたちの心を揺り動かし、楽しかったという思いをもたせることができた。そこで楽しかったぶどう狩りの活動を再現し、ぶどうを工作によって作る活動は、伝えたい話したい思いをもって取り組むことができると考えた。また、自分で作ったぶどうが、どんな形や色（「大きい」「小さい」「丸い」「紫色の」）であったかという特性を伝えることができると考えた。

（2）視覚的台本を用いた「準備・練習」の工夫

伝えるための言葉の学習として、動詞（作る、もってくる、丸める、さす、掛ける等）を取り上げて動詞の語彙を増やす学習を行う。また、物の特性を表す語彙（大きい、小さい、丸い、紫色の等）についても学ばせたい。その学習方法の一つとして視覚的台本を利用する。ぶどう作りの活動の写真から伝えたい場面を選び、写真の下に何をしたのかを文に書かせる。それは視覚的台本を書くことによって、話したいことの整理が苦手な子どもたちにとって何を話して伝えるのかを定型文に当てはめながらまとめることができるからである。また、文章や写真を合わせた視覚的台本は、話すことを思い出す手がかりとなり、自分の体験を話すという行動を促すことができると考えるからである。

3 学習指導計画（全2時間） ◎学習活動 *個のねらい

時	A（1年）	B（1年） C（1年）	D（2年）
体験の場	◎生活単元学習 「秋の遠足」		
1 （本時）	◎「ぶどう作り」		
準備・練習の場	◎「ぶどう作り」を振り返り、家族に伝える内容を視覚的台本に書き、伝える練習をする。		
	*体験写真を選び、教師の声を模倣しながら「ぶどう作りました」と話すことができる。	*視写で視覚的台本を書くことができる。 *文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは大きい（小さい）ぶどうを作りました」と話すことができる。	*写真を手がかりに視覚的台本を書くことができる。 *全文を隠した視覚的台本（「 <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました」と話すことができる。
発表の場	◎家庭において、家族に「ぶどう作り」のことを話す。		
	*視覚的台本の写真を指さして伝えることができる。	*文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは大きい（小さい）ぶどうを作りました」と話すことができる。	*全文を隠した視覚的台本（「 <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）を作りました」と話すことができる。
振り返りの場	◎ 家族からのビデオレターを見て、伝わったことを確かめる。 ◎ 前時での話しているビデオを見て、話すことができていることを確認し、視覚的台本にシールを貼る。		
2 時	*家族からのビデオレターを見ることができる。 *写真を指さしていることや、大きな声がでていることを確認し、シールを貼ることができる。	*家族からのビデオレターを見て、家族からの感想を教師と一緒に確認することができる。 *文末を隠した視覚的台本を見ながら、文章の全文を話していることを確認し、シールを貼ることができる。	*家族からのビデオレターを見て、家族からの感想を教師と一緒に確認することができる。 *全文を隠した視覚的台本を見ながら、文章の全文を話していることを確認し、シールを貼ることができる。

4 本時の学習

(1) ねらい

指導計画の1時（本時）を参照

(3) 評価規準

子ども		(○) 具体の評価規準 と (△) 評価規準に至らなかった時の支援
A	(○)	体験写真を選び、教師の声を模倣しながら「ぶどうを作りました。」と話すことができる。
	(△)	写真を選ぶ時に教師が指さしをしてモデルを示し選ぶことができる。 文末の「作りました」を教師の声を模倣して話すことができる。
B	(○)	文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。
	(△)	全文が書かれている視覚的台本を見ながら、「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。
C	(○)	文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。
	(△)	全文が書かれている視覚的台本を見ながら、「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。
D	(○)	全文を隠した視覚的台本を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。
	(△)	文末を隠した視覚的台本（「ぼくは、大きい（小さい） <input type="text"/> 」）を見ながら「ぼくは、大きい（小さい）ぶどうを作りました。」と話すことができる。

(2) 展開案

学習活動	◎主な学習活動 ○個の活動 ★支援			
	A (1年)	B (1年)	C (1年)	D (2年)
1 活動の見通しをもつ。 (1)秋の遠足の体験を振り返る学習。 (2)本時の内容を確認する。 5分	◎秋の遠足で体験をしたことを思い出す。 ◎学習すること知り「誰に、いつ、何を伝えるのか」等の学習であることがわかる。 ★秋の遠足での写真を提示して体験を想起させる。 ★伝える相手の顔写真を提示する。			
2 ぶどうを作る。 15分	◎動詞（作る、持ってくる、丸める、書く、掛ける）を動作で実演しているVTRを見て、何をしているかの質問に答える。 ★「大きい」「小さい」の文字を提示する。 ★何種類かの「大きい」「小さい」の例を写真で提示する。 ◎「大きいぶどう」と「小さいぶどう」のどちらを作るのかを自由に選び、選んだぶどうは「大きい」「小さい」かを話す。			
3 視覚的台本を作る。 10分	◎ 視覚的台本に伝えたい写真を選び貼る。 ★ 活動の写真（作っている場面の写真）をT2が用意する。 ◎ 視覚的台本に話したいことを書く。 ★ 写真や板書を手がかりに書く。 ★ 早く終わった児童は、自分の視覚的台本を読む練習を行う。			
4 発表する。 10分	○平仮名のなぞり書きをT2と一緒にする。 ★視覚的台本になぞり書きができるように準備しておく。	○文が書かれている紙を見ながら書く。 ★封筒の中に文が書かれた紙を用意しておく。	○文が書かれている紙を見ながら書く。 ★封筒の中に文が書かれた紙を用意しておく。	○写真や板書した言葉を手がかりに書く。 ★書いた文を読み返し助詞が間違っていないように確認する。
5 振り返りをする。 5分	◎ 作成した視覚的台本を基に話す。 ★ T1が一人一人の母親のお面をかぶり、母親役になって話を聞く。 ★ T2が一人一人の父親のお面をかぶり、父親役になって話を聞く。			
	○選んだ写真を見ながら、「ぶどう作りました」と教師の声を聞き音声模倣する。	○文末を隠した視覚的台本を見ながら話す。	○文末を隠した視覚的台本を見ながら話す。	○全文を隠した視覚的台本を見ながら話す。